

令和 8 年度第 1 回高知県森林環境保全基金運営委員会 会議要旨

- ◎開催日時 令和 8 年 7 月 16 日（木）13:30～15:30
- ◎開催場所 高知県共済会館 3 階「藤」
- ◎出席者 委員：比嘉委員長、松本副委員長、池知委員、岡村委員、亀岡委員
近藤委員、武政委員、立石委員、堂本委員（欠席：田中委員）
事務局：林業環境政策課
事業担当課：林業環境政策課、森づくり推進課、木材増産推進課、
木材産業振興課、自然共生課、中山間地域対策課、
高等学校課、生涯学習課

1 開会挨拶

2 副部長挨拶、事務局議事進行説明

3 議事

令和 7 年度森林環境税活用事業の実績について【資料 1】

- ・各事業担当課より資料 1 をもとに説明

（松本副委員長）

山の学習支援事業の宿泊型学習支援だが、令和 8 年度の参加者数の目標値がかなり増えている。達成の目処は、どの程度についているのか。また、山の学習の参加者数の目標値は上がり調子であるが、全体の学校数の範囲や、学校の規模によって、学校数のどの範囲までを目標値にするかを具体的に定めていく時期に来ているのではないかと。

（林業環境政策課）

宿泊型については、令和 8 年度における新たな活用希望校は 16 校が見込まれ、9 校プラス 16 校で 25 回を目標にしている。山の学習については、令和 7 年度は 25 市町村 93 校の活用があり、令和 8 年度からは幼稚園・保育所を対象に広げ、計画では 5 園を予定していることからの 98 校を目標としている。今後は活用されていない市町村へ聞き取りを行い、学校数を増やしていきたいと考えている。目標については、現在の実態の分析を踏まえて委員会でご意見をうかがい、検討していきたい。

（比嘉委員長）

山の学習支援事業の次年度への対応についてだが、宿泊型の学校行事の対象を 2 泊 3 日以上から 1 泊 2 日以上にしたことについて、もう少し説明が聞きたい。

(林業環境政策課)

教職員の多忙化や森林体験学習の時間確保の難しさから、2泊3日から1泊2日への変更の要望があったため、実施期間（要件）を変更した結果、16校の新規増加へと繋がった。使い勝手の良い事業にしていきたい。

(松本副委員長)

令和8年度の話になるが、森林環境学習等推進事業委託料のインターネットホームページ保守管理委託料はどこへ移管されたのか。

(林業環境政策課)

森・ヒト・こうち応援ネットは閉鎖し、森と緑の会のホームページへ移行という形になる。森と緑の会のホームページの方が訪問者が多く、そちらでボランティアの情報を提示した方が効果的なのではないかという判断で統合した。

(松本副委員長)

環境学習推進事業について、客体のニーズに合わなかったという説明があったが、実際はどういうニーズだったのかお聞きしたい。

(生涯学習課)

修了生と受講者の交流が欲しいという声があり計画した研修であったが、日程が合わないなどの理由で参加者がいなかった。

(松本副委員長)

フォローアップは重要な話である。うまくいかなかった理由を残し、情報共有することで活かしていければと思う。

(生涯学習課)

市町村教育委員会に名簿を提供する。また、放課後子ども教室、児童クラブ事業の学び場人材バンクを活用し、学校現場や学校以外の放課後の居場所でご活躍いただけるよう繋いでいきたいと考えている。

(比嘉委員長)

高校生森林理解事業について、学校数・参加者数ともに増えており、評価できる活動と思う。予算の関係上、学校が増えすぎると、1つの学校への支援が難しくなるのではないかとと思うが、学校を増やしていける可能性があるのかについてお聞きしたい。

(高等学校課)

森林が身近にある中山間地域の学校を考えている。生徒数も少ないため、そこまで予算が

増えることはない。

(松本副委員長)

成果PRの場を設けたり紹介したりモチベーションを上げることで、学びの定着が図れると思う。オーテピアでのロビー展示やもくもくエコランドでのブース出展、毎年やっている森林管理局の発表会での紹介、または地域スーパーでのパネル展示など、PR（公開）用の費用を計上する余地を設けるということでも良いのではないか。学校のホームページに掲載することは簡単なことであるが、他県では環境活動をしていることを学生数の確保に活用しているところもある。高知県の高校生が地域貢献活動を行っていることをPRしていくのも相乗効果が図れて良いと思う。

(高等学校課)

参考にして取り組んでいく。

(松本副委員長)

林業大学校（短期課程）研修業務等委託料だが、PR先が伸び悩みの原因としてあるのでは。チェーンソーや草刈り機を扱っている販売店にチラシを置くということは実施していなかったのではないかと思う。直接的な利用者が意識するようなきっかけになったら良い。

(森づくり推進課)

いろいろな方面で検討していく。

(近藤委員)

林業大学校（短期課程）研修業務等委託料について、どういう属性の方が参加されているのか。

(森づくり推進課)

年代ごとの変化は分析できていないが、40代を超えた方が多く、ごくまれに若い方がいるような状態。50代が中心。

(近藤委員)

指定管理鳥獣捕獲等事業委託料で、捕獲数が幡多区域は安定しているが、高岡・香美区域が少なめなのは何か理由があるのか。

(中山間地域対策課)

生息区域が変化するため。

(近藤委員)

罾の設置数に差はなく、生息区域の関係で上下しているということか。

(中山間地域対策課)

そのとおり。罾の設置場所も状況によって移設しているが、このような結果になっているため、今年度はより考慮していきたい。

(比嘉委員長)

補足だが、令和7年度と令和8年度は場所が違い、シカ頭数が少ないところで実施したため、目標も少し下がっている。今年度は2年目ということで事業実施者も状況は分かっていると思うので、期待したいところ。

シカ個体数調査委託料で、高知県は推定値が捕獲頭数に依っているところが非常に大きい。個体数の推定精度はよくない。できればもう少し信頼性の高いモニタリング指標を使ってほしい。そのあたりの検討状況はどうか。

(中山間地域対策課)

今年、第二種特定鳥獣管理計画を改定予定。これから委託業務の発注予定なので、そのあたりも踏まえて考えていきたい。

(比嘉委員長)

モニタリング指標を新たに実施するとなるとそれなりの予算も必要となると思うので、その確保も念頭に置いておいてほしい。

(立石委員)

山の学習支援事業について、思っていたよりも各市町村の小学校が実施していることがわかった。森林環境学習もいいのだが、地元の森林組合に声掛けし、地元の地域の山林の状況を踏まえながら学べば、もっと深い授業内容になるのではないか。地元を知り、地元の環境を大切にしようとなれば、地元において、そのような職業を選ぶ人が少しずつでも増えていくことが理想だと思う。実際に地域で働く林業の現場の方が持っている知識を小学校の環境学習に活用していただけると、地元の山林の良さも再認識できると思う。

(林業環境政策課)

いただいたご意見について、森林環境学習プログラムの作成及び実施支援を行っている森と緑の会にも共有する。

(堂本委員)

これほど暑いと、学校施設に木が増えることで木の恩恵が感じられると思う。緑化促進事業について、令和8年度は目標が3箇所となっているが少ないのでは。

(林業環境政策課)

予算のときの要望であり、それを目標値としている。まだ正式な申請はないが、4箇所くらいになりそうである。

(堂本委員)

草花遊びの権威の先生が、緑化の郷土樹種リストを大変興味深くご覧になっており、我々には分からない木が多かったので、園庭に木を植えるときの参考となるような資料があると良い。また、高校生の話を聞いていて思いついたことであるが、校庭を緑化すれば、環境学習につながると思う。また、補助金がもっと気軽に使える形だと良い。園が試行錯誤しながら植えることができるよう、木が段々と増え、子どもたちが親しめるような制度になればと思う。

(林業環境政策課)

この事業は令和7年度で終了予定だったが、要望もあり令和8年度も予算を確保。来年度以降はまだ不明だが、ご意見を参考に検討していきたい。

(堂本委員)

木の香るまちづくり推進事業は、ターゲットに対してどういうPRをしているのか。また、遊具等を木質化するときに、「この業者に頼めば作ってくれるよ」といったルートみたいなものがわかれば、消費者も活用したいと思うのではないかな。

(木材産業振興課)

PRについて設計士の団体、工務店などに説明させていただいている。また、令和7年度はスーパーのチェーン店、車のディーラーなど64回953名の方とお会いしてお話させていただいた。各団体の広報誌にも掲載していただいたが、実績にはまだ結びついていない現状である。

木製品の導入については、高知県木製品工業連合協同組合のホームページの中に、各事業者の製品が掲載されており、PRで伺った際にお伝えしている。

(堂本委員)

組合のことは、学校へは伝わっているのか。来ていただきたい前に知る形はないのか。

(木材産業振興課)

事業説明のチラシに記載を行うようにする。

(松本副委員長)

堂本委員が要望されているのは、相談にのってもらい他と繋いでくれる中間役。直接、業者に繋がれると負担が大きい。中間役を担ってくれる「ぶらっとホームMOKU」のような

ところを紹介されることが、最も効率的ではないか。

市町村繋がりのところを押さえているのであれば、高知県としてやるべきは観光地としての魅力化のための木造化・木質化であると思うので、観光協会や観光意識のある宿泊業等にPRするべきではないか。

(堂本委員)

高知の森と水・流域合同フォーラム開催業務委託料は、県内外の方の感想を聞く機会があったのだが、とても評判がよかった。それは、互いのネットワークづくりができたことによるものではないかと考える。令和7年度は金土の2日間で、令和8年度は土曜日の1日のみとなっているが、内容が縮小されるということか。また、参加者が少ないから対話が豊かになりネットワークが確かになるというルートがあるとするれば、人数が多いことだけを目指して良いのかとも思う。

(自然共生課)

金曜日の参加者が土曜日に比べて少なく、クロストークは土曜日開催で好評だったため、今回は土曜日にまとめた。令和7年度は20団体に参加していただいたが、令和8年度はもう少し絞り、濃密なやり取りをしていただく予定。

(岡村委員)

指定管理鳥獣捕獲等事業委託料について、認定事業者として高知県猟友会がこれまで請け負ってきたのだが、今回は県外の事業者ということ。地元の狩猟者の方が良いのではないか。

(中山間地域対策課)

この事業の実施事業者は、認定鳥獣捕獲事業者となる。その方々に対しての公募型プロポーザルなので、そこは令和7年度と変わらないと考えている。

(亀岡委員)

木の香るまちづくり推進事業費補助金は、設計段階で話を詰めておくことが肝だと思うので、金融機関としても情報提供できたらと考える。令和7年度決算額が650万円、自己評価が「あまり評価できない」に対して、令和8年度予算額は1,520万円となっているが、見込みはあるのか。

(木材産業振興課)

1,500万円の見込みがある状態ではない。令和7年度の予算としては2,000万円を計上したものの、650万円の実績となったため本年度は減額をした。そのなかで1,500万円に向けてPRしていく。

(亀岡委員)

魅力的な補助金なので、可能な限り情報提供していきたい。

(比嘉委員長)

森林環境学習フェア開催委託料の目標値について、天候により実績が左右されるため、不安要素がある。

また、森林環境税を使っているというアピールだけでなく、森林環境税のチラシの裏にあるように、県としてのビジョン、そのための事業として、この部分を使っているというPRができると良い。

(林業環境政策課)

来場者数の目標値については、天候が大きなところではあるが、少しでも多くの方に来ていただき、森林の学習をしていただきたいと思い、令和7年度実績見合いで設定。チラシについては、ご意見を参考にさせていただく。

(松本副委員長)

座談会等開催委託料において、座談会の第1部で説明した後に意見交換となっているが、現行施策の情報が入ると固定観念がついてしまう可能性がある。自分の理想とする森林や期待する役割を自覚し、現状の森林をその姿に近づけるために何が必要かを検討した後、現在はこのような事業展開である、という流れであれば、より自分ごととして考えてくれるのではないと思う。会の形を再検討していただければと思う。

もう1点、森林資源再生支援事業費補助金のシカ対策について、単木保護の成果が見られる時期にきているが、どう考えているのか。現在、植栽密度を1,700本/haまで下げているので、下刈り時の誤伐の問題が大きくなっている。その辺りのフォローが必要。また、森林の再生に関する問題が出てきていると懸念している。事業のフィードバックで、ワナや保護に関する問題を回避するための情報収集(問題事例の報告)についても補助事業条件に組み込むことも重要だと考える。森林総研が課題にされていて、情報提供されていると思うが、森林の再生に関して少し考えなければいけない時期かなと思う。

(林業環境政策課)

令和8年度の座談会については、現在企画段階であるため、ご意見を参考に検討していきたい。

(木材増産推進課)

シカ対策については、ネットで防御する部分と全県下ではなく一部地域ではあるがチューブで保護しているところがある。製品によっては生分解性ではないものがあり、生分解性は費用が若干高く、今のところ解消できるものがない状態である。いろいろ考えていくべきだと考えている。

植栽密度は、保安林の指定要件がないところは、2,000本以下で進めている。誤伐の情報はあまり上がってきておらず、むしろ、シカやウサギの害の方ががあるため、この事業を使い、捕植を行い、健全な森林の生育に取り組んでいる。

シカ対策については、ネットやチューブに相当な費用をかけている。一部地域では下刈りをする事業者が狩猟者となってシカを捕獲しているところもある。この事例を参考にして、個体数を落としていくことに効果があるということで、今年はそういった調査も新たに取り組んでおり、その結果を見ながら、対策を考えていきたい。

(池知委員)

森林環境学習フェアについて、ブース・内容別で来場者数がわかる資料はあるか。著名人を見て帰られた方がここにカウントされると意味がない。資料があれば次回に役立つのでは。

横断的な話だが、指導員と呼ばれる方々が何をされているのかがつかめない。接する相手は小さいお子さんから高校生くらいまで、非常に繊細なものが求められ、接するときに気をつけなければならないことがたくさんある。指導員の方もバックグラウンドがあり、何を伝えたいかはそれぞれ違う。

林業や山の専門家、森林組合が、もう少し登場してこないものかと思う。山を知っている方をもっと活用していただきたい。

情報の扱いについて、ホームページに載せたというような受動的な形でなく、気軽に目につくような能動的な形でアピールできれば、事業を知ってもらうことができ、事業活用にも繋がると思う。

(堂本委員)

現場をつなぐ、コーディネーターが必要なのではないか。

(林業環境政策課)

専門の方の活用、また、現場とつなぐことは大事だと考える。今後、森と緑の会や市町村とも情報共有を図り連携をとりながら取り組んでいきたい。

広報、情報の発信や扱いについては、これまでは、ホームページへの掲載、チラシ配布などが多かったが、最近はデジタル広告にも取り組み始めたところ。積極的な広報の方法を検討して取り組んでいきたい。

森林環境学習フェアのブース別の来場者数を確認することは難しい。ブース別となると、各ブースでの集計をお願いしなければならないが、人数の問題で難しい。時間別の集計は可能と思う。

(武政委員)

分野がまたがっていてもいいので、たくさんの事業が一括で載っていて、窓口やコーディネーターに繋がることのできる、ぱっと見たときにわかる一覧的なものがあると、事業の活

用が進むのではないかと感じた。

私事ではあるが、四万十川での川下り体験ができる3泊4日のイベントに2回参加し、高知の大自然に包まれるのを肌で感じた。森でも、一般の学生の方が直接参加できるイベントのようなものがあれば良い。

(林業環境政策課)

分野ごとの補助金の一覧表については、これから検討していきたいと思う。

森での体験については、こうち山の日推進事業内でも行っているため、PRに力を入れていきたい。

こうち山の日推進事業は森林への多種多様な関わり方という形で、様々な方が提案してくれている。さらに広がっていけば、参加者の関わり方も広がっていくのではと期待しているところ。

4 報告事項

(1) 第5期森林環境税の目標の進捗状況について【資料2】

(2) 座談会等の実施について【資料3】

- ・事務局より資料2、3をもとに説明

(松本副委員長)

資料2の森林保全ボランティアの参加者数が如実に落ちており、施策を打ってもやっつけくださる方が少なくなっている現状を表している。今後、どのように担い手をつくっていくと考えているのか。もしくはそれに資する施策のイメージがあればお聞きしたい。

(林業環境政策課)

高齢化が進み、新規参入者の数も限られている。新規参入者へは、やはり広報が重要である。

(松本副委員長)

社会的意義でボランティアをやられていた方がどんどんいなくなり、世代の変化も大きい。高知県は、大型河川から上水道を引いている家庭と、沢水などから共通上水道を引いている家庭があり、後者の方々が自分たちの生活用水のための森林保全を積極的に行うことで、地域の野生鳥獣との距離感をもつための森林の整備、所有山林以外の人たちも自分たちの生活を守るために積極的に森林整備をするという産業外の関係性というのが、高知県の山間地域では今後すごく重要になるのではないかと。ボランティアの考え方が、これまでの都市での森林ボランティアから変わり、生活に関わる場所の共助の範囲でのボランティア活動が増えていくのではないだろうか。これは参考までに。

(比嘉委員長)

参考資料2にあるように、「森林環境税に関するアナウンスが不足している」という意見もあるので、事業についてだけでなく、環境税についても広く周知に努めてほしいと強く思う。